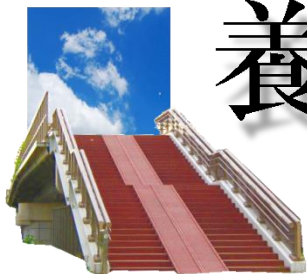


# 養育院の 歩道橋

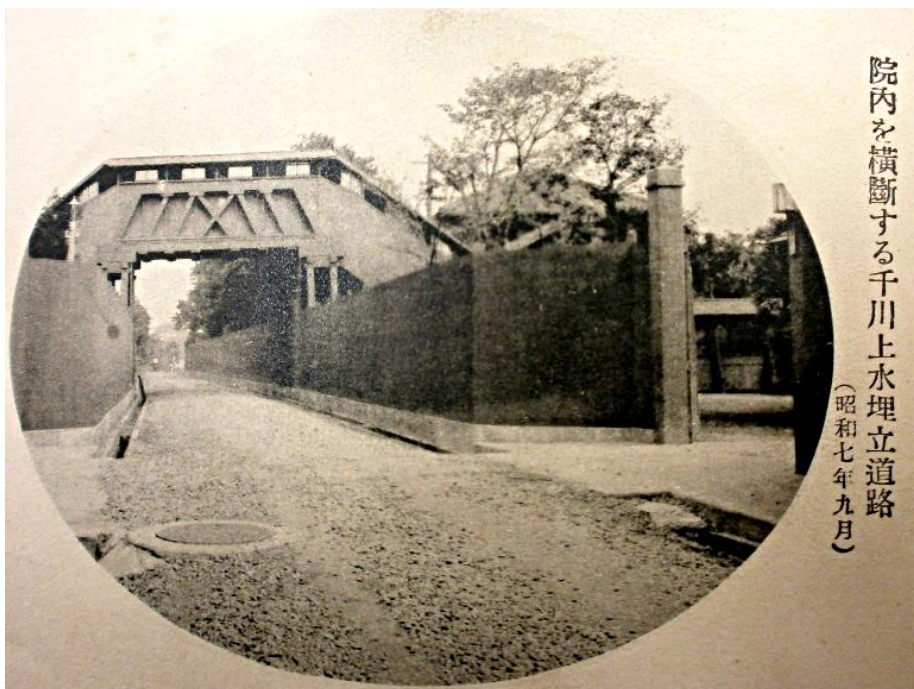
宮本孝一 (老年学情報センター)



車道や線路をまたぐ、歩行者専用の橋「歩道橋」。  
歩道橋は、昭和三〇年代に車社会が到来し、交通事故の多発（交通戦争）が社会問題になったことで、日本各地に作られるようになりました。  
日本初の歩道橋は、一九五九（昭和三四）年に学童専用陸橋として愛知県に作られた西枇杷島町横断歩道橋（にしびわじまちょうおうだんぼごうきょう）とされています。



「日本初の歩道橋」西枇杷島町横断歩道橋（愛知県清須市）。二〇一〇（平成二二）年に取り壊された。



院内を横断する千川上水埋立道路

（昭和七年九月）

ここに、一枚の歩道橋の写真があります。よく見ると道路に轍（わだち）が見えます。車道をまたぐ歩道橋です。  
撮影は昭和七年九月と記されています。西枇杷島町横断歩道橋に先立つこと約三〇年。もしかするとこれが本当の「日本初の歩道橋」かもしれません。  
「院」とは養育院のことです。



この歩道橋の写真は「創立六十周年記念寫眞帖 東京市養育院昭和七年十月」(老年学情報センタ―所蔵)に掲載されています。

かつて養育院の敷地には千川上水が横切って流れていました。千川上水は、玉川上水から分岐し、西東京市・武蔵野市の境界から西巣鴨まで続く全長二二キロの用水路です。現在、ほとんどの区間は暗渠になっています。

養育院敷地を横切る千川上水も道路になりました。そして、道をまたぐ歩道橋が作られたのでした。

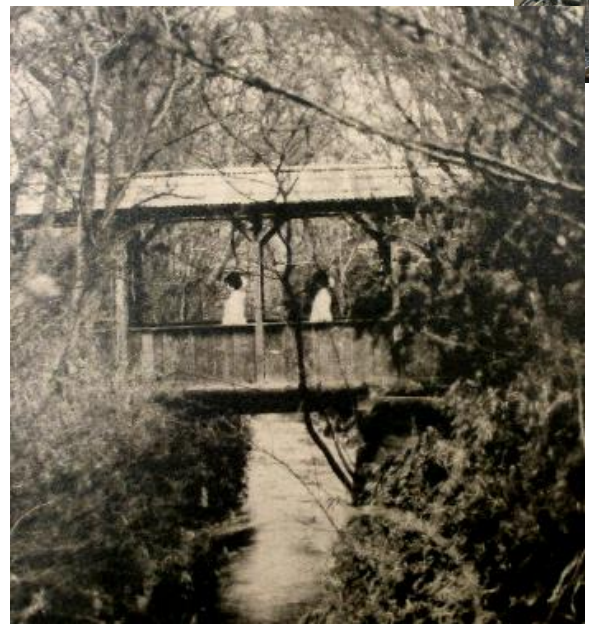
日本では、一九三三(大正)年の関東大震災をきっかけに自動車が増えました。東京では市電・鉄道が壊滅し、復興資材運搬用でトラックなどの車が大量に輸入されました。市バスやタクシ―も増加しました。これが日本のモータリゼーションのはじまりといわれています。



歩道橋はこのあたり？



また、関東大震災では、当時大塚にあった養育院本院が崩壊。養育院本院は、もともと分院のあった板橋に急ぎよ移転しました。日本初の歩道橋(？)「養育院の歩道橋」誕生は、関東大震災が遠因といえるかもしれません。



歩道橋が作られる前は、千川上水に屋根付きの橋が架かっていました。(昭和五年撮影 創立六十周年記念寫眞帖より)

